

# 参画のはしご

We act wide as we are Zipong 桔童

## ～子ども「に教える」から子ども「が学ぶ」へ～

子ども達は、活動の企画段階から参画することによって、気づきや新しい発見をし、自ら考え学び行動し、責任もつことなどを学びます。子どもの参画が活動の中心に置かれているか否は、青少年団体に限らずボランティア団体やNPOでも最も真摯に取り組まなければいけない重要な課題です。

## 参画のはしご

ロジャー・A・ハート博士による「参画のはしご」では、8段階の梯子のうち、子どもがどの程度参画しているかが問われています。1段目の「操り参画」は、子供たちが趣旨を理解せずに活動に参加することであり、最上段の8段目は「子ども主導の活動に大人も巻き込む」こととしています。

8段目に相当する参画の例は、ボーイスカウトの発祥時期にあったものの実際はきわめて少ない。その理由は、子ども達の興味が何であるかに耳を傾ける大人は少ないことです。

最高段階の実現は、子どもにも耳を傾ける大人がどれだけいるにかかっています。

